

株式会社ノースブル



代表取締役
菅原 紀氏

●企業の概要

企業名：株式会社ノースブル

代表者：代表取締役 菅原 紀

住所：宮城県仙台市青葉区芋沢字青野木343-2

設立年：2011年

業種：農業・卸売業（牛受精卵の生産・販売）

資本金：30百万円

従業員数：10名

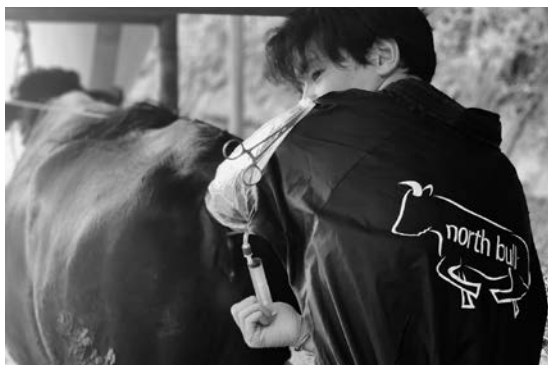
●事業の概要

当社は和牛受精卵の生産・販売・移植を行う。和牛から採卵した受精卵を培養し、乳牛に移植し、乳牛から和牛を産ませる。当社は東北で1番、全国でも4番目の受精卵移植件数の実績があり、当社の技術力と当社特許である「子宮頸管模型」を活用した受精卵移植の技術者育成を行うことで受精卵を供給し、畜産農家の経営環境改善を目指す。



社員とともに

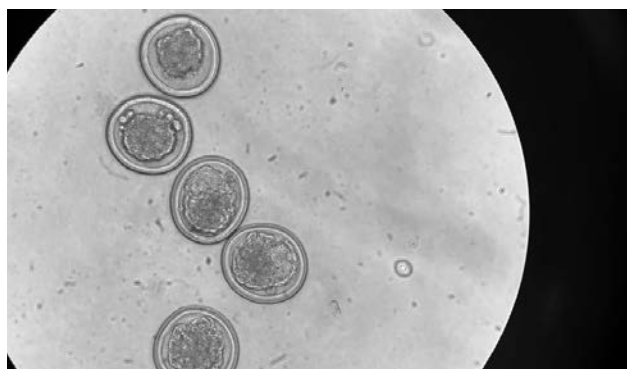
「乳牛から和牛を産ませる」～受精卵移植に携わる技術者育成を体系的に行い、高い成功率の受精卵移植を提供し、畜産農家の経営環境改善を目指す



採卵作業



研究



受精卵

●受賞の理由

当社は和牛農家から受精卵を買い取り、体外受精させた受精卵を培養し酪農家が育てる乳牛に移植する。和牛農家は、受精卵を当社に売ること副収入を得ることができ、一方、酪農家は乳牛の分娩が必要であるが、産まれてくる牛を乳牛の倍の価格で取引される和牛として販売することができる。これにより、和牛農家・酪農家ともに新たな設備投資を必要とせず農家所得の改善に大きく寄与することが可能となる。

しかし、受精卵移植が増加しない要因として技術者の不足が挙げられている。獣医師、移植師、培養士の手技は属人的な部分が大きく、一番の影響が牛の子宮頸管を経由して子宮に受精卵を着床させる手技であるが、技術向上の機会が就業を通じた研修などに限られ、学ぶ場所が少ない点も課題とされる。

当社は数多くの移植実績があり、獣医師、移植師、培養士全てで複数名の体制を構築。当社の特許技術である「子宮頸管模型」を用いて反復練習を行うことで、採卵から移植まで一連の技術を自社農場で体系的に学ぶことができるため、高い成功率の受精卵移植を行うことが可能となっている。また、常に最新技術の研究・研鑽を行うため学会での論文発表等を行い、先端的技術の研究・実証を行っており、付加価値を高めることで収益向上を目指している。

農林水産省の統計によると全国の肉用牛を飼養する農家は1995年に約17万戸あったが、2021年には約4.2万戸と約75%が離農している。背景には休日をも十分に取得できないことや手間の割に収入が上がらないなどの課題が挙げられている。当社の技術を活用することで、畜産農家の所得改善につながるるとともに、和牛の頭数を増やさずに和牛の生産量を増やすことで、地球温暖化の原因の一つである温室効果ガスの排出を抑えることができる。

当社の取組みにより和牛・酪農家の経営改善と環境負荷を抑えた持続可能な和牛の供給が期待される。